

# 赤字にならない就労支援事業

NPO法人まちくらネットワーク熊本  
就労支援センターワンピース  
管理者 本村達弥

# 本日お伝えする内容

1. 当法人の紹介
2. 当事業所の紹介&作業科目について
3. 就労支援事業会計が黒字化に繋がった要因
4. 職員育成について
5. まとめ

# 1. 当法人の紹介

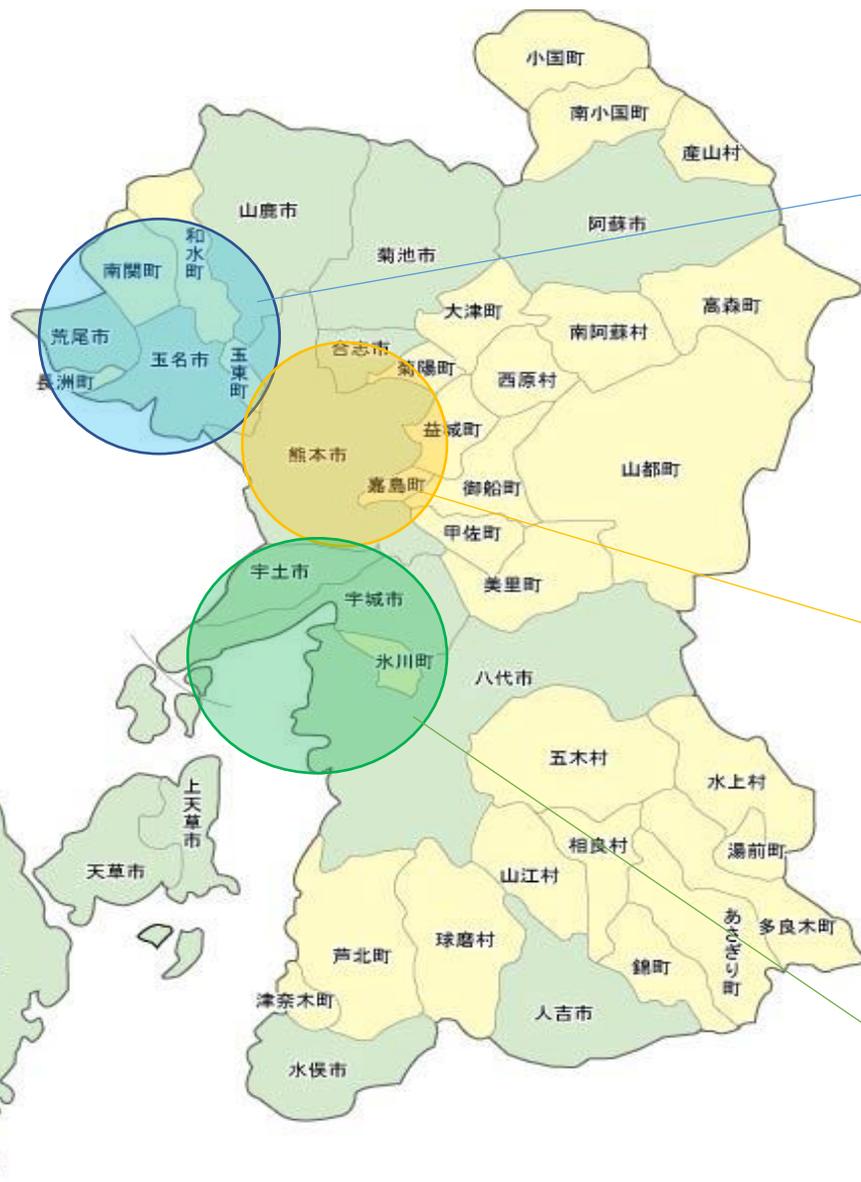


- ・法人名：まちくらネットワーク熊本
- ・設立：平成18年4月
- ・従業員数：59名（R6.2現在）

## 法人理念

「すべての人が、それぞれに人間として豊かに！」

# 当法人が運営している事業所について



## ①就労支援センターワンピース

- ・就労継続支援A型事業:25名
- ・就労移行支援事業:6名
- ・就労定着支援事業:登録者3名(R7.2現在)

## ②リアルビーホーム

- ・共同生活援助事業:8名(本体GH7名・サテライトGH1名)

## ③就労支援センタージョイナスコーヒー

- ・就労継続支援A型事業:28名
- ・就労継続支援B型事業:12名

## ④ライフサポートセンターアメニティ

- ・共同生活援助事業:17名

## ⑤まちくら相談支援センター

## ⑥就労サポートセンターGAMADUS

- ・就労継続支援A型事業:20名
- ・就労継続支援B型事業:20名

## ⑦ライフサポートセンターリアン

- ・共同生活援助事業:27名

## 2. 当事業所の紹介&作業科目について

### 就労支援センターワンピース

・開所年月日:平成25年4月

・提供サービス:

就労継続支援A型(定員:25名)

就労移行支援(定員:6名)

就労定着支援(利用登録:3名)

・就労継続支援A型における作業科目:

①パン製造業務

②パン販売業務(店舗・移動販売)

③医療機関での清掃業務(施設外就労)

④製材所での木材運搬・梱包業務(施設外就労)

⑤高齢者施設でのリネン交換(施設外就労)

⑥医療機関の売店業務



### 3. 就労支援事業会計が黒字化に繋がった要因

- ①法人全職員を対象とした全体会議の開催
- ②委員会活動の開催
- ③施設外就労先の開拓
- ④パン製造販売部門におけるBtoCからBtoBへのシフト

# ①法人全職員を対象とした全体会議の開催

- ・1回／月の頻度で、法人内の正職員全員が対象の会議を実施している。  
通称：全体会議
- ・内容としては、各事業における前月の活動収支及びキャッシュフローの周知、各事業における取り組み内容について、前月の反省と今月の目標を報告。
- ・上記の報告内容が終了後、各委員会活動を実施。

# 「8.3%」の共通認識

各事業所の活動収支について周知徹底を図る上で「8.3%」を職員全員が常に意識をしている。月に1回実施することで、リアルタイムでの軌道修正が可能となっている。

令和〇〇年度 予算対比実績表（〇月期）

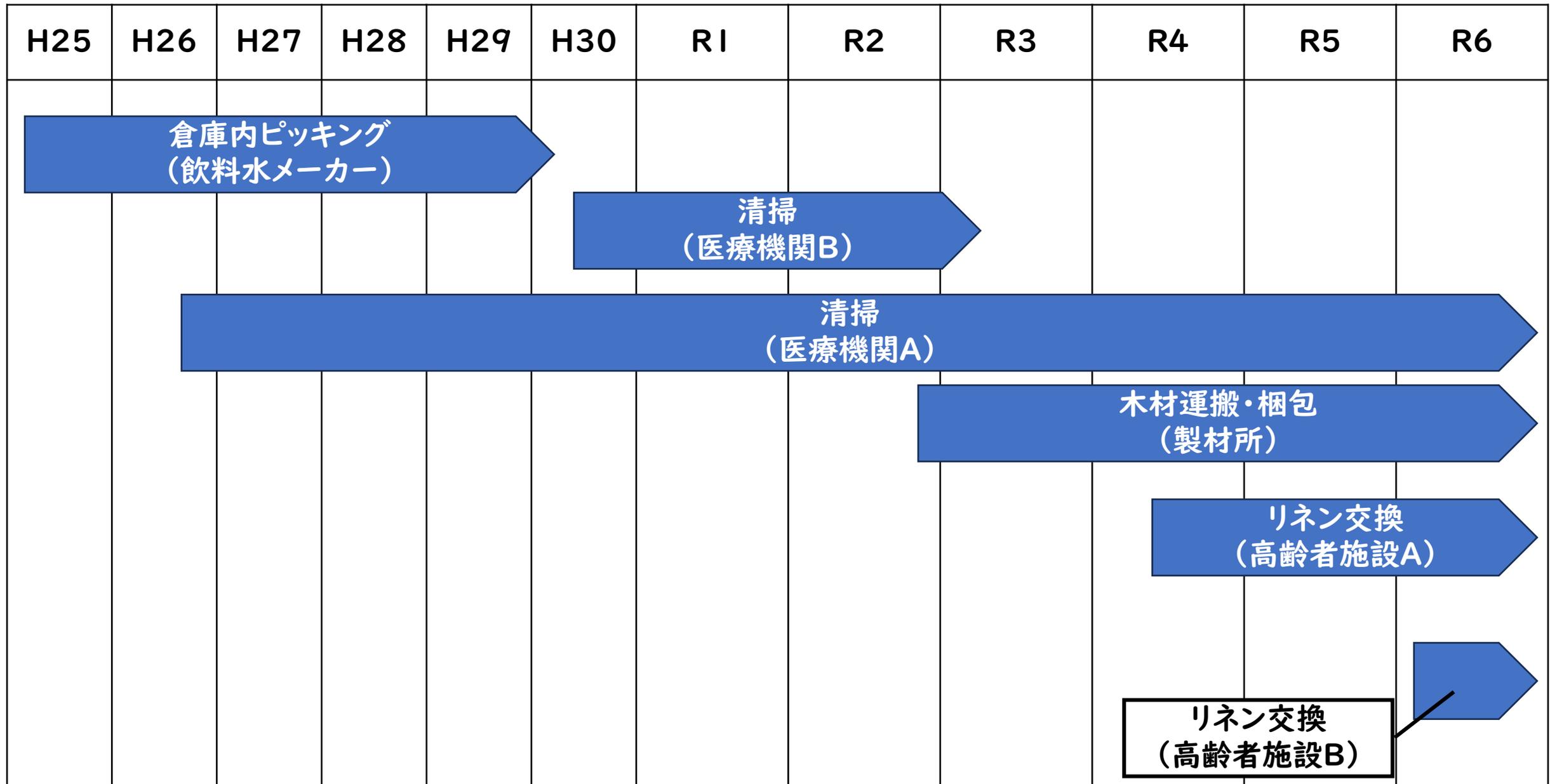
			予算	〇月	〇月～〇月	%
就労支援事業 活動収支	収入	就労支援事業活動収入				
	支出	就労支援事業活動支出				
福祉事業活動 収支	収入	福祉事業活動収入				
	支出	福祉事業活動支出				
施設整備 収支	収入	施設整備費収入				
	支出	施設整備費支出				
財務活動 収支	収入	借入金収入				
	支出	借入金償還金支出				
経常収支差額						

予算に対する執行状況が%表示される。  
予算通りに行うと、8.3%/月当たりとなる。  
**8.3%**を職員全員が意識して業務を行う。

## ②委員会活動の開催

- ・1回／月の頻度で開催される、職員会議後開催している。
- ・委員会は下記の通り組織している。
  - ①安全管理委員会：事故防止、非常災害対応、衛生面管理等
  - ②食品安全委員会：HACCPに基づく衛生管理、提供食事の嗜好調査等
  - ③虐待防止員会：虐待防止対策、苦情解決、第三者委員会開催等
  - ④広報委員会：広報誌の発行、住所録・HP管理運用、情報公開等
  - ⑤リスクマネジメント委員会：BCP策定、KY活動、ヒヤリハット集約等
  - ⑥販売促進委員会：新商品開発、季節商品企画、ブランディング活動等

### ③施設外就労先の開拓



## ④パン製造販売部門におけるBtoCからBtoBへのシフト

- ・パン製造販売部門については、「店舗」「移動販売」「納品」の3スタイルで販売活動を行っている。
- ・新型コロナウイルスにより「移動販売」の売上が低迷したこともあり、安定した売上確保を目的に「納品」について注力するようにシフトしていった。
- ・また、「納品」に加え自動販売機での販売もスタートし、近隣の公立高校やJRの駅舎内で販売活動を行っている。

# 収支の状況について(過去5年)※再掲

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
就労支援 事業収入	43,984,742円	40,242,814円	46,941,606円	49,141,919円	52,746,341円
経費	16,608,522円	14,465,227円	14,905,592円	15,130,721円	16,087,366円
貸金支払 総額	29,410,778円	30,355,003円	29,732,344円	31,655,397円	33,980,770円
収支差額	▲2,034,558円	▲4,577,416円	2,303,670円	2,355,801円	2,678,205円

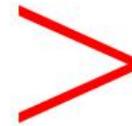
- ・令和2年度までの収支はマイナスの状況が続いていた。
- ・特に令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響でマイナスが大きくなっている。

## 4. 職員育成について

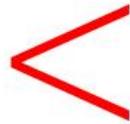
同じチカラ（スキル）でしょうか？



# グループホームで必要なチカラは こんなイメージ。



就労継続支援で必要なチカラは  
こんなイメージ。



就労系福祉サービスでは、  
一般職員にもリーダーシップが  
求められる場面が多くあります。



言い換えると…

一般職員にもリーダーシップに関する知  
識やスキルを身につけて頂く必要がある  
ということです。

# まとめ

- ・好事例を法人内の事業所間で水平展開できる状況は当法人の強み。
- ・日々の売上やコストに関する意識を管理職以外のスタッフも十分に持つておくことが必要。
- ・社会情勢や自事業所が置かれている環境を常にアセスメントし、リスクヘッジを含めた行動選択を行う必要性が高い。
- ・福祉サービスの顧客は利用者であるが、就労継続支援A型はそれに加えて、就労支援事業に係る取引先や販売先等も顧客となる。その点で、支援者に求められるスキルは高く、仕事内容も多岐にわたると考える。そのための人材育成体制を整備する必要性が高い。